

News Release

発行／埼玉縣信用金庫 総合企画部 TEL 048-526-1111(代) <http://www.saishin.co.jp>

平成 30 年 5 月 21 日

株式会社日本格付研究所より「A-」の格付けを取得

埼玉縣信用金庫（本店：熊谷市 理事長：橋本 義昭）は、平成 30 年 5 月 17 日付で、株式会社日本格付研究所（JCR）より上位ランクに位置付けられる「A-」（シングル A マイナス）の格付を取得いたしました。当金庫の営業基盤である埼玉県で一定の利益水準を保持し、不良債権比率（金融再生法開示債権比率）も低く抑えられていることなどが要因です。

<格付の概要>

格付機関	株式会社日本格付研究所（JCR）
格付対象	『長期発行体格付』 ※債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したもの。
格付の据置	『A-』（シングル A マイナス） ※ JCR の長期発行体格付は、「AAA」、「AA」、「A」、「BBB」、「BB」、「B」、「CCC」、「CC」、「C」、「LD」、「D」の 11 等級に区分され、「A」は上から 3 番目となります。 「A」の意味は「債務履行の確実性は高い」とされています。 また、「AA」から「B」までの格付記号には同一等級内での相対的な位置を示す符号として、プラス（+）もしくはマイナス（-）の符号による区分があります。
取得日	平成 30 年 5 月 17 日（木）
主な格付事由	（1）埼玉県内全域に店舗網を持ち、貸出シェアは県内 3 位。地元で強固な事業基盤を有している。 （2）取引先数の増加による貸出金の増加や余資運用の見直しにより、コア業務純益の更なる落込み懸念は小さいとみている。 （3）不良債権比率（金融再生法開示債権比率）は平成 29 年 9 月末で 1.71% と信金平均を大幅に下回る。 （4）有価証券運用の金利リスク量は大きな水準にはない。 （5）コア資本比率は低下傾向にあるものの、当期純利益は安定した水準を維持している。

<JCR による格付事由>

- (1) 埼玉県熊谷市に本店を置く資金量約 2.6 兆円の信用金庫。埼玉県は東京への通勤・通学の便が良いことから人口が増加し住宅の取得ニーズが高いことや、多様な産業基盤などを背景に預貸金の市場規模は大きく、拡大基調にある。その中で、当金庫は県内全域に支店網を持ち、貸出シェアは県内 3 位と一定のプレゼンスを有している。地元での強固な事業基盤や良質な貸出資産などが格付を支えている一方、リスクアセットの増加に見合う利益を確保できるかが課題である。
- (2) 18/3 期上半期のコア業務純益は前年同期比約 9%の減益となった。良好な事業基盤を背景に預貸金残高を順調に伸ばしてきたものの、貸出金利回りの低下によりコア業務純益（投資信託解約益を除く）は減益傾向が続いてきた。今後は新規約定レートが下げ止まり貸出金利回りの低下幅が縮小する一方、取引先数増加に取組み、貸出金を伸ばしていくことや余資運用の見直しなどで、コア業務純益（同）がさらに落ち込む懸念は小さいとみている。
- (3) 金融再生法開示債権比率は 17 年 9 月末で 1.71%（部分直接償却は未実施）と、信金平均を大幅に下回る水準にある。一部大口先のランクダウンの影響はあったものの、与信費用は比較的落ち着いた水準で推移している。与信の小口分散が図られていることに加え、特定の債務者に対し保守的な引当がなされており、大口不芳先の未保全額も少ないことから、与信費用は今後も落ち着いた水準で推移すると JCR ではみている。
- (4) 有価証券運用では、国内金利リスク（超長期）、海外金利リスク、クレジットリスクなどをとり、国債・金融債からリスク資産へのリバランスを行うことで収益性の低下を抑えている。しかし、金利リスク量は資本対比でみて大きな水準にはなく、また、投資信託残高が大きく増加しているものの大半が債券型であり、株系資産にかかわる価格変動リスクは大きくない。今後は預け金から有価証券運用へのリバランスにより収益向上を目指しているが、市場リスク量を適切にコントロールできるか見守っていく。
- (5) コア資本比率は 17 年 9 月末で 8.68%（単体）と、前年同月末比 0.3 ポイント低下した。当期純利益は安定した水準を維持してきたものの、リスクアセットが大きく増えたことから低下傾向にある。今後も貸出金を中心に引き続きリスクアセットは増えていくとみられ、コア資本比率を維持できるか注視していく。

本件のお問合せ

埼玉県信用金庫 総合企画部：山田

電話：048—526—1111 URL：<http://www.saishin.co.jp>